

ビックカメラの挑戦とITX2.0の利用

株式会社ビックデジタルファーム
デジタルソリューション部
担当部長 兼 システム開発室長

池田 哲也





1. 自己紹介
2. ビックカメラ “DX宣言” の紹介
3. ITX2.0採用の背景
4. ITX2.0の実施内容
5. 自社内での施策
6. まとめ

自己紹介



池田 哲也(いけだ てつや)

株式会社ビックデジタルファーム デジタルソリューション部 システム開発室長

普段の業務

主に3つの部署（開発、インフラ、SOC）のマネジメント業務

部署横断での標準化

採用業務

AWSとの関わり

前職で2007年ごろにCloudWatchを調査した時が最初

その後AWSを自社サービス基盤として本格的に利用

好きなAWSサービス

S3、QuickSight



アジェンダ



1. 自己紹介
2. ビックカメラ “DX宣言” の紹介
3. ITX2.0採用の背景
4. ITX2.0の実施内容
5. 自社内での施策
6. まとめ

ビックカメラDX宣言 “AWSを全面採用”



全社をあげてDXにコミット、デジタルを巻き返しの起点に

NEWS RELEASE

2022年6月13日
株式会社ビックカメラ

パーパス実現に向けて DX 宣言を発表

「ビックカメラ OMO 戦略」実現のため Salesforce と AWS を全面採用

株式会社ビックカメラ（東京都豊島区、代表取締役社長：木村 一義）は、パーパスである「お客様の購買代理人として ぐらしにお役に立つぐらし応援企業であること」の実現に向けて、マテリアリティ（重要経営課題）の一つである「お客様エンゲージメントの向上」を目指し、「購買代理人としてのマーケティング力強化」に取り組んでおります。

デジタル技術の活用（DX）については、2022年1月にデジタル戦略部を新設、DX 施策の検討を行って参りました。当社は『DX 宣言』として購買代理人としての「デジタルを活用した製造小売物流サセキヤ企業」を目指すこととお知らせいたします。

【ビックカメラ OMO 戦略について】

当社は購買代理人として、店舗と EC のシームレスな結合を通じて顧客体験を向上する OMO¹戦略を推進します。これにより、お客様はオフライン（店舗）とオンライン（EC を含めたデジタル）を意識することなく、ご希望のタイミングで場所を選ばず、ご自由にお買い物を楽しんでいただけます。また、店舗と EC をまたがるお客様情報を統合することで、よりお客様一人一人にあったオススメ情報をご提供いたします。

【事業展開の機敏性・効率性を高めるシステム開発の実現】

「Salesforce Lightning Platform」「BizRobo!（RPA）」、「アマゾン ウェブ サービス（AWS）」をプラットフォームにシステム開発の内製化を推進、コストダウンを実現します。

「Salesforce Lightning Platform」を活用したデジタル基幹化を目指し、既存基幹システム機能のマイグレーションを推進（ダウンサイジング）、コストダウンを実現します。その前フェーズとして、AWS のクラウド移行

日経BP | 日経クロステックとは？

日経 XTECH

IT | 電機 | 自動車 | 産院

日経クロステックトップ > IT電機 > ビックカメラが内製で挑む、家電量販DX

【重要】6/19（日）午前中はPDFダウンロードができません | 3分アンケート：CTOについて聞かせてください

特集
ビックカメラが内製で挑む、家電量販DX

+ 特集をフォロー

鈴木 豊太 | 日経クロステック / 日経コンピュータ

PR

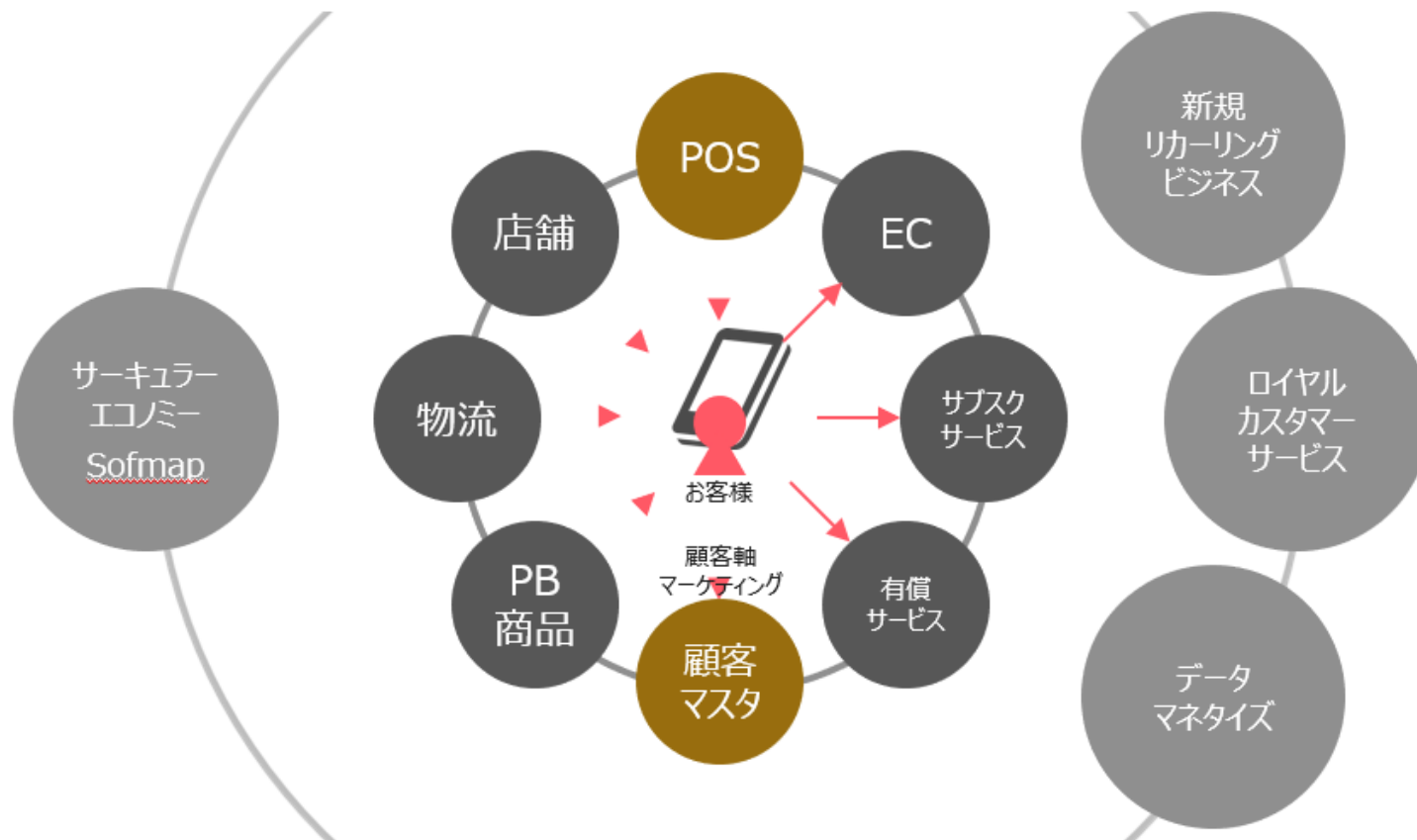
【データ・マネジメントの新戦略】新世代インテリジェントストレージとは？ IT駆進を相対的に考える時代：アップレでクラウドバリューを実現するとは？ データ管理に欠かせない「4つの課題」と解決に必要な「3つの戦略」とは？

聖域なき事業改革へ……。ビックカメラが木村一義社長のもと、大胆な改革に乗り出している。SPA（製造小売）化、事業領域の拡大、スタートアップとの提携、総額100億円規模のコーポレート・ベンチャー・キャピタル（CVC）の設立……。多岐にわたる改革の中でも現在とりわけ重視するのが、デジタル変革だ。2022年1月に経営企画直下に既存のシステム部門を統合した「デジタル戦略部」を発足し、外部からITのプロ人材を続々と招いている。2022年6月13日にはアマゾン ウェブ サービス ジャパンとセールスフォース・ジャパンとの提携を発表したほか、今夏にはITエンジニア雇用のための新会社を立ち上げ、本格的な内製化に乗り出す。木村社長が描く「ビックDX」に迫る。

ビックカメラが目指す“新しい顧客体験”イメージ図



OMO※をフル活用して“お客様喜ばせ業”の深化へ

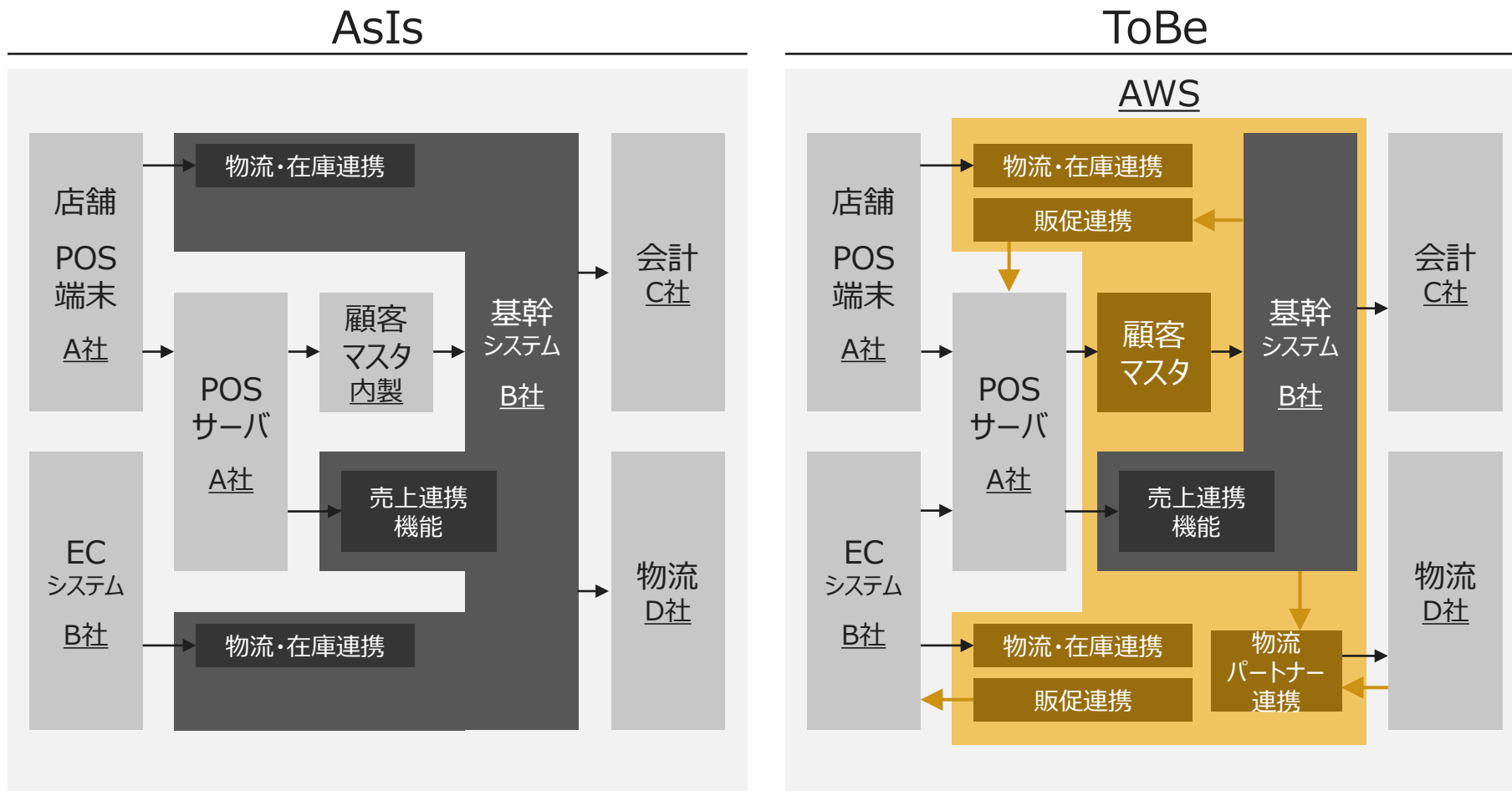


※ OMOは「Online Merges with Offline(オンラインとオフラインの統合)」の略。マーケティング手法のひとつ。ビックカメラでは「お客様喜ばせ業」という理念の追求のためにOMOを推進している。

基幹システム・モダナイゼーション



クラウドリフトに留まらず、モノリシックからマイクロサービスへ





AWSを基盤としてDXを推進

OMO戦略・基幹のモダナイゼーションを内製化で支える



アジェンダ



1. 自己紹介
2. ビックカメラ “DX宣言” の紹介
3. ITX2.0採用の背景
4. ITX2.0の実施内容
5. 自社内での施策
6. まとめ



内製化を進める際の課題

導入効果の把握、育成、実行、採用に課題

課題	詳細
● 導入効果の把握	✓ 実際にAWSに移行をした際のコスト見積もり
● 育成	✓ AWSの専門的な知識やスキルセットの育成 ✓ 効率的なトレーニング法
● 実行	✓ 標準化、ガイドラインが存在しない ✓ 実務経験が浅い状況での構築や移行
● 採用	✓ AWS経験者が集まらない

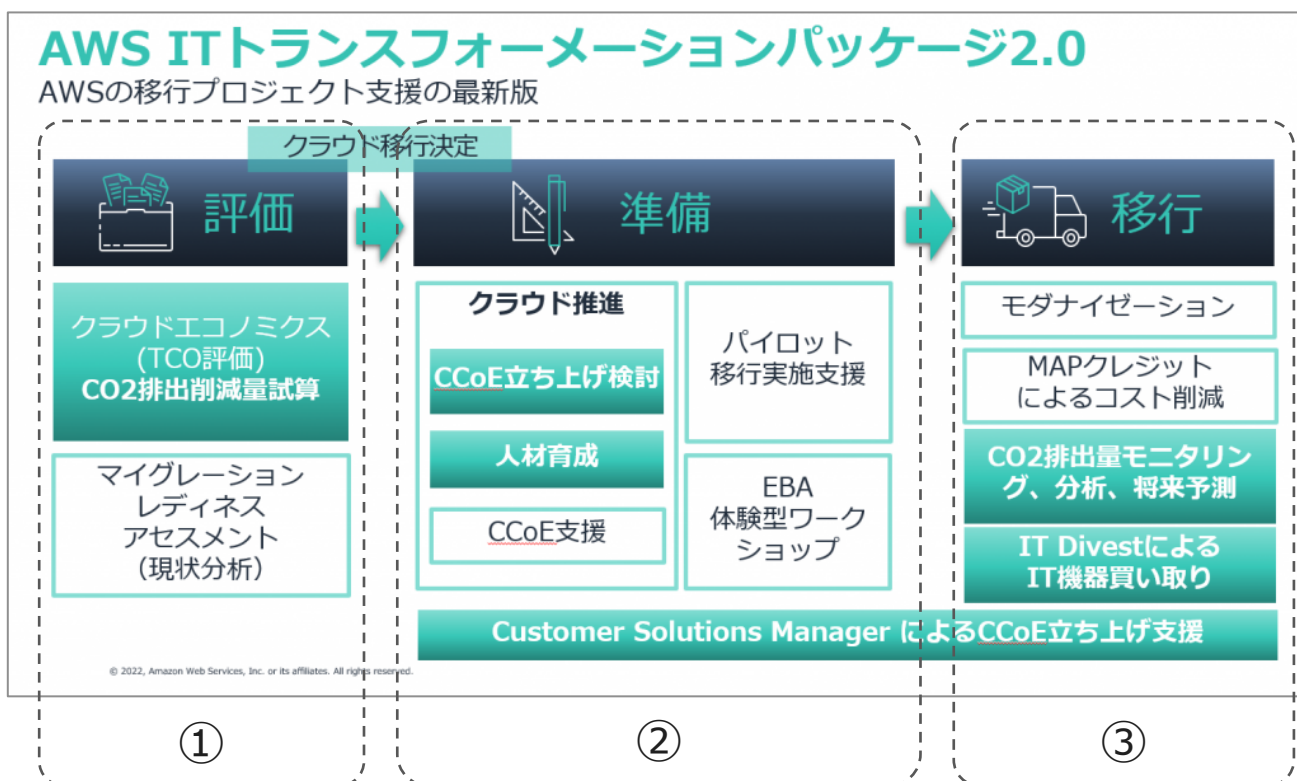
AWSが提供する“ITX2.0”の概要



評価から準備・移行までをAWSが手厚くサポート

ITX2.0イメージ

概要



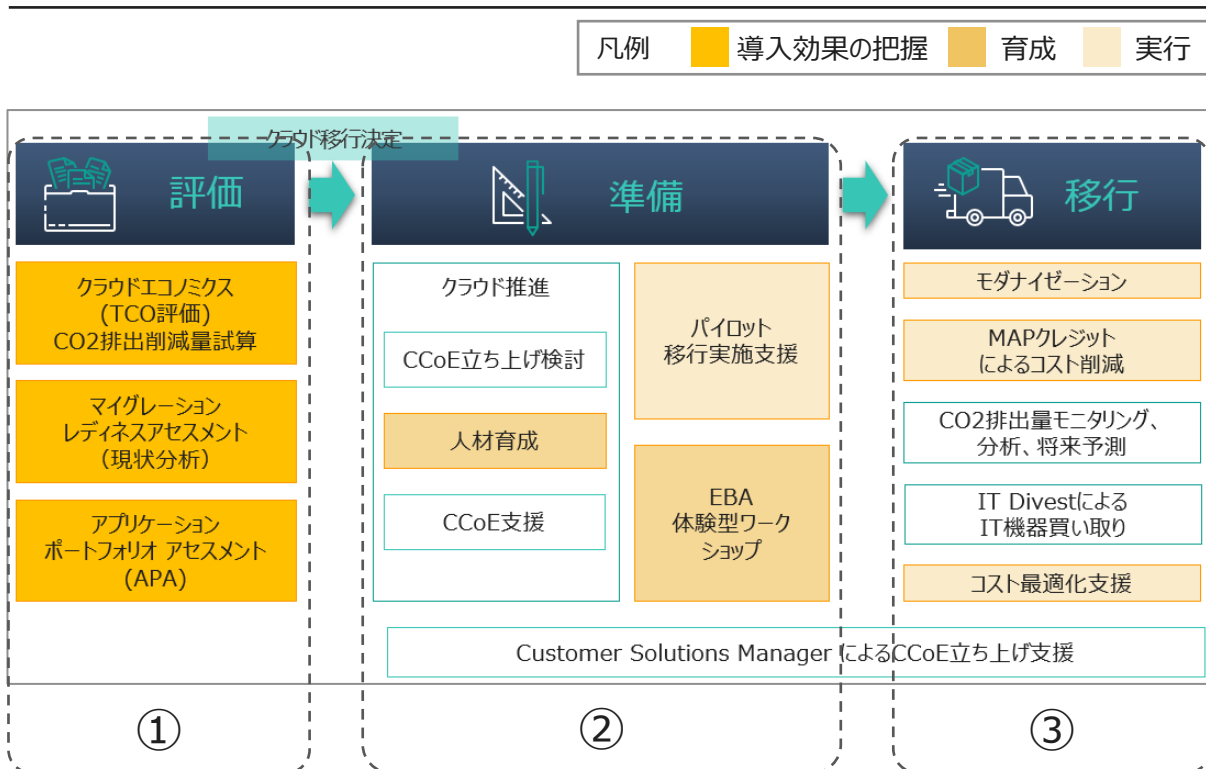
- ① 評価：クラウドエコノミクスを利用したAWS移行時のコストメリットの視覚化
- ② 準備：CCoE立ち上げ支援やワークショップの実施、技術の底上げ、標準化の推進
- ③ 移行：実際の移行についての計画策定、アドバイス、伴走

課題解決に効果ありと判断、“ITX2.0”を採用



ビックカメラの内製化における課題の大半を解決

ビックカメラの課題に対するITX2.0対応イメージ



採用背景

- ✓ 当社課題の大半を網羅的に解決
- ✓ 導入効果の把握においてクラウドエコノミクスがまさに求めていたソリューション
- ✓ 準備フェーズでの育成支援
- ✓ 移行フェーズでの計画策定、パイロット移行実施支援

アジェンダ



1. 自己紹介
2. ビックカメラ “DX宣言” の紹介
3. ITX2.0採用の背景
4. ITX2.0の実施内容
5. 自社内での施策
6. まとめ



① 評価：クラウドエコノミクスでのコストダウン予測

インフラコストの試算に加えて、スタッフの生産性も試算

実際のクラウドエコノミクスでの試算結果

クラウドエコノミクス活用効果

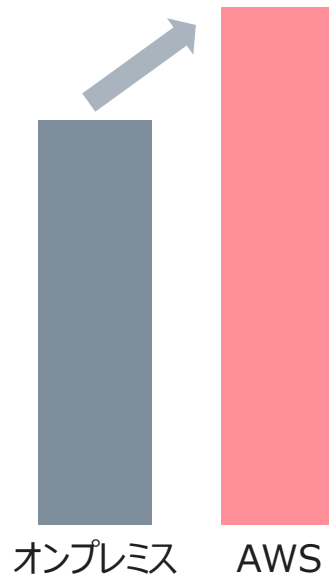
インフラコストの削減

26%削減



スタッフ生産性の向上

30%向上



- ✓ 実際の既存システムを基に試算するため納得感が高い
- ✓ 全体的なインフラコストの規模感の把握
- ✓ スタッフの生産性向上も試算可能
- ✓ トータルでのコストダウン効果の視覚化







予算策定に活用



②準備：EBA体験型ワークショップの活用

ワークショップを活用、スタッフ全体のスキル向上に貢献

実施したトレーニング

	• EC2構築ハンズオン
	• DB系サービスの特徴解説
	• キューイング系サービスの特徴解説
	• VMCサービスの特徴解説
	• Cloud Watchの設定、モニタリングのハンズオン
	• 最新のEC動向とそれを支えるAWSの技術について

その他

✓ SAAトレーニングバウチャー(3名分)
✓ 今後月1でのハンズオン



③移行：移行計画からパイロット移行まで活用

アーキテクチャレビューも活用 構築、移行の足掛かりに

移行フェーズでの支援内容	実施内容
● アーキテクチャレビュー	✓ 設計書、アーキテクチャ図、実装プランなどをレビュー、設計の正確性、可用性、耐久性、拡張性などを検証
● 移行計画支援	✓ ヒアリング結果をもとに、仮の移行スケジュールを策定、実際の移行スケジュールのひな型として利用
● パイロット移行実施支援	✓ 移行計画、設計、構築、リリースなど試験的な移行（パイロット）の実施を支援

※パイロット移行実施支援は今後実施予定

アジェンダ



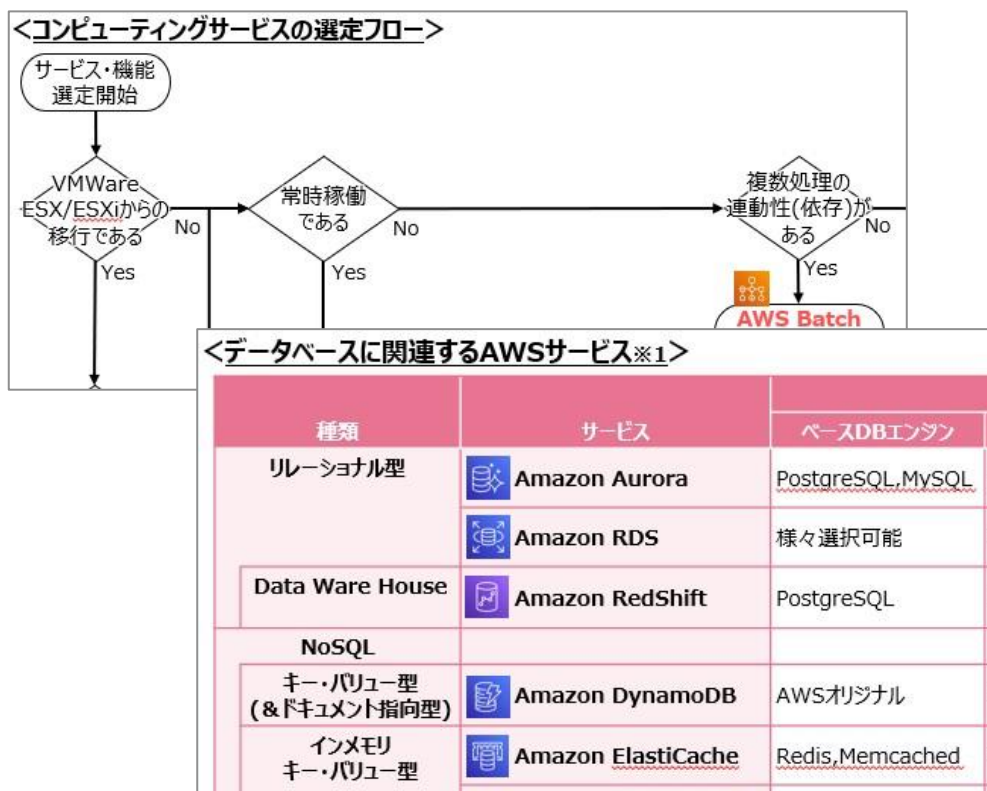
1. 自己紹介
2. ビックカメラ “DX宣言” の紹介
3. ITX2.0採用の背景
4. ITX2.0の実施内容
5. 自社内での施策
6. まとめ

“ITX2.0” 以外での内製化施策



自社ガイドラインを策定、自社トレーニングを実施

ガイドライン資料イメージ



実施内容

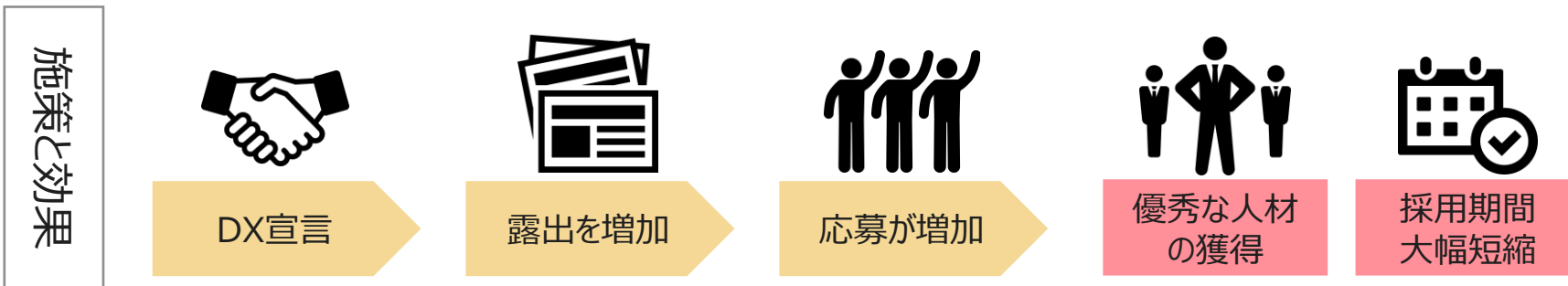
- ✓ 協力会社とともにビックカメラ標準のAWS構築ガイドラインを策定
 - ✓ メンバー、部署間の共通言語化
 - ✓ 構築、選定時の指標
 - ✓ アウトプットの質の向上

- ✓ 社内トレーニングの実施
 - ✓ 部内の有資格者主導で実施
 - ✓ 資格取得も視野に入れた講習
 - ✓ 部内に留まらずにオープンな形式

採用課題についての施策



AWS全面採用での露出増により、優秀な人材の獲得に成功



アジェンダ



1. 自己紹介
2. ビックカメラ “DX宣言” の紹介
3. ITX2.0採用の背景
4. ITX2.0の実施内容
5. 自社内での施策
6. まとめ

内製化の足掛かりとして“ITX2.0”は非常に有用



ビックカメラは今後も継続して活用

- ✓ 当社内製化の課題とITX2.0のサービス内容はとてもマッチしていた
- ✓ 準備、移行フェーズも当社課題に向き合う柔軟なサポート
- ✓ クラウドエコノミクスについては答え合わせができることが最大のメリット

End of File

